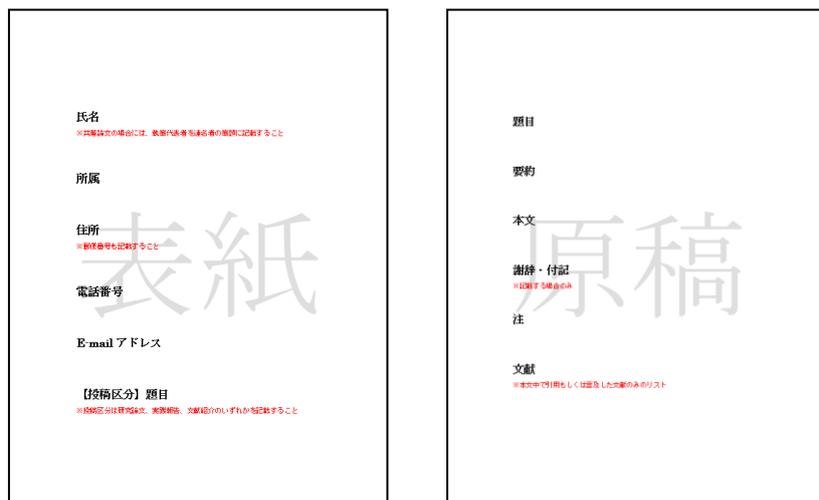


同志社大学学習支援・教育開発センター年報 執筆要領

1. 原稿には題目を記した表紙をつけること。表紙には、投稿者の氏名（共著論文の場合には、執筆代表者を連名者の筆頭に記載すること）、所属、住所（郵便番号を含む）、電話番号、E-mail アドレスを記入し、題目の前に原稿の投稿区分（例：【研究論文】）を明記すること。なお、表紙は以下に規定する原稿の分量に含まない。



2. 原稿はワープロソフトを用いて作成し、日本語で原稿を執筆する場合には、A4 版縦置きに横書きとし、1 頁あたり 41 字×38 行で印字すること。英語で原稿を執筆する場合には、A4 版縦置きに横書きとし、1 頁あたり 500 words で印字すること。表紙を除く原稿の分量は原則として以下の限度内とする（本文の他、題目、要約、図表、写真、注、文献等を含む）。英語による投稿の場合にも同様の枚数とする。
 - (1) 研究論文 13 頁以内
 - (2) 実践報告・活動報告 8 頁以内
 - (3) 文献紹介 1 頁以内
3. 原稿の構成は、(1) 題目、(2) 要約、(3) 本文、(4) 謝辞・付記（記載する場合）、(5) 注、(6) 文献（本文中で引用もしくは言及した文献のみのリスト）の順序とする。
4. 原稿の執筆にあたっては以下の点を厳守すること。
 - (1) 邦文の場合は原則として MS 明朝で作成する。欧文の場合は原則として Times New Roman で作成する。
 - (2) 本文の文字フォントサイズは 11 ポイントとする。

- (3) 本文、要約、注、引用文献は、全角文字を使用する。欧文および算用数字は、半角文字を使用する。
- (4) 邦文の場合、句読点は全角の「、」「。」を使用する。欧文の場合は半角の「,」「.」（カンマ）「,」「.」（ピリオド）を使用する。
- (5) 邦文は原則として「常用漢字」「現代仮名づかい」を使用して執筆する。
- (6) 研究論文と実践報告には、本文の前に題目、要約（邦文の場合は200字以内、欧文の場合は100 words以内）を添付する。
- (7) 本文には、適宜、見出しおよび小見出しをつけること。見出しは「**1. はじめに**」、小見出しは「**2.1 ラーニング・コモنزの機能**」のように、番号のあとに全角1字分の空白（スペース）を入れ、簡潔なタイトルをゴシック体太字で記載する。
- (8) 図表、写真は本文中の適切な箇所に自らレイアウトし作成すること。ただし、図表、写真はそのまま掲載できるよう適切な大きさにすること。なお、誌面はモノクロ印刷であるので、グラフなどはモノクロでも見やすいように工夫すること。
- (9) 図表、写真には、それぞれ「**図1 学期別来館者数**」、「**表1 学生数の推移**」、「**写真1 ラーニング・コモنزの様子**」のように通し番号をつけ、番号のあとに全角1字分の空白を入れ、簡潔な題名（タイトル）をゴシック体太字で記載する。たとえ原稿中に図表、写真が一つしかなくても「**図1**」、「**表1**」、「**写真1**」となる。なお、題名（タイトル）は、図と写真の場合にはその下に、表の場合にはその上につける。他の著作物から引用する場合には、図表（写真）の下部に出典を「出典：国立教育政策研究所（2016）」のように明記し、その文献を必ず文献リストに記載すること。他の著作物からのデータ類をもとに投稿者が集計・加工した場合には、「国立教育政策研究所（2016）をもとに作成」などと記載する。なお、必要があるならば、事前に著作権保持者から許可を得ること。
- (10) 査読は匿名で行われるため、原稿本文及び要約には、「拙著」「拙稿」などの表現や、研究助成、共同研究者への謝辞など、投稿者が推測できるような表現・記述を極力避けること。ただし、これらの記載が必要な場合は、採録決定後に加筆することができる。
- (11) 本文中で、文献を引用もしくは言及した場合には、著者名（出版年）、あるいは（著者名 出版年）のように記載し、「（ ）」（カッコ）は全角の丸カッコを用いる。（著者名 出版年）の形式で記載する場合は、著者名と出版年のあいだには必ず半角1字分の空白（スペース）を入れること。著者名は姓のみを記載する。ただし、参照する文献に同姓の著者が複数いる場合には、著者名が漢字表記であれば氏名すべて、アルファベット表記であれば、ファミリーネーム、イニシャルを記載する。なお、引用した頁数を明記する場合には、出版年のあとに「:」（半角コロン）と半角1字分の空白（スペース）でつなぎ、始頁、「-」（半角ハイフ

ン)、終頁を記入する。終頁の数値のうち、始頁の数値と同じ上位の桁は省略する。なお、原稿末尾の文献リストにおいて、頁数を記載する必要のある場合にも、この方式によること。

【例】 (井上 2004: 172-8)

a) 同一著者の複数の文献を参照した場合、各文献の出版年のあいだは「,」(半角カンマ)と半角1字分の空白(スペース)でつなぐ。

【例】 (山田 2013, 2015)

異なる著者の複数の文献を参照した場合、文献と文献のあいだは、「;」(半角セミコロン)と半角1字分の空白(スペース)でつなぐ。

【例】 (川嶋 2015; 金子 2016)

b) 共著の場合、邦文の文献の場合は著者名を「・」(ナカグロ)でつなぎ、英語の文献の場合は著者名を and でつなぐ(ドイツ語の文献の場合は und、フランス語の文献の場合は et、等々)。なお、and は&としてもよいが、原稿のなかでは一貫した表記法をとらなければならない。

【例】 (夏目・中井 2014)、(Guo and Deng 1998)

共著者が3名以上の場合は、筆頭著者のみを記載し、「ほか」「et al.」をつける。

【例】 (松塚ほか 2016)、(Adams et al. 1988)

c) 同一著者の同一刊行年の異なる文献を引用する場合は、出版年の後に a, b, c…と小文字のアルファベットを引用順に付して区別する。

【例】 (土持 2016a)、(McDonald 2000b)

d) 訳書の場合は、(Goffman 1961=1984)のように記載する。すなわち、(原著者名 原書の出版年=訳書の出版年)の形式で記載する。(Goffman 1961=1984: 78)と記載すれば、78という頁数は訳本の頁数を示すことになる。訳書があっても、原書のほうを参照して自分で独自に訳出した場合には、(Goffman 1961)とのみ記載する。(Goffman 1961: 86)と書けば、86は、原書の頁数を示している。原書と訳書双方の頁数を示したい場合には、(Goffman 1961: 86=1984: 78)と表記する。

(12) 文献から直接の引用をせずに、他の研究者の業績に言及しただけの場合や自分の言葉でまとめなおした場合でも、本文中に必ず文献を明示しなければならない。このような場合の文献の表記法には、研究者名のすぐ後につけるやり方と、言及が終わったところにつけるやり方がある。どちらの方式を採用してもかまわないが、原稿のなかでは一貫した方式をとらなければならない。

【例】 山田 (2013) によれば、……である。

山田によれば、……である (山田 2013)。

デュルケームによれば、……ではない (Durkheim 1895=1978: 45-6)。

また、著者名(出版年)の記載の仕方は、読者にその文献の参照を求める場合にもみられる。

【例】この点については、山田（2013）を参照されたい。

(13) 注は文中の該当箇所に 1) 、 2) ……と表記し、原稿末尾にまとめて記載する。

(14) 文献は、邦文、欧文を含めて著者または編者（共著・共編書の場合は筆頭著者）の姓のアルファベット順とし、年代の古い順に西暦で記し、同一著者の同一刊行年の異なる文献を引用する場合は、出版年の後に a, b, c…と小文字のアルファベットを引用順に付し、注の後にまとめて記載する。同一著者の文献に、単著のほか、編書や、その著者が筆頭著者となった共著や共編書がある場合には、単著、単独の編書、共著、共編書の順に記載する。同一のカテゴリーに文献が複数ある場合は、出版年順に記載し、2 つめ以降の文献の表示には、氏名の代わりに、————（4 倍ダッシュ）を用いること。なお、本文中で直接に引用もしくは言及していない文献の掲示は避けること。

文献リストの基本的な書式は、著者名、出版年、論文名、編者または訳者名、書名または雑誌名（欧文文献の単行本と雑誌のタイトルとサブタイトルはイタリック体とするが、イタリック体で表記できない場合はアンダーラインをつけておくこと）、巻(号)、出版都市名（日本国内の場合は不要）、出版社名、始頁—終頁の順とし、以下の形式に従うこと。

a) 著書

①【和文文献】著者名、出版年、『タイトル——サブタイトル』出版社名。「,」「.」は全角とし、書名には『 』（二重かぎカッコ）をつける。書名にサブタイトルがあるときは、タイトルとサブタイトルのあいだは、「——」（2 倍ダッシュ）でつなぐ。なお、文献の奥付でのサブタイトルの記載において、スペースや「:」（コロン）などの記号が用いられている場合でも、「——」（2 倍ダッシュ）でもってサブタイトルの表示をする。また、シリーズや講座名など、必ずしもサブタイトルとは言えない語句と書名とが併記されている場合には、例えば、『シリーズ大学の教授法 3 アクティブラーニング』という形式で、基本的には奥付に記載されたままに記入し、各語句のあいだに半角 1 字分の空白（スペース）を入れる。「新版」「第 2 版」「増訂版」などの書誌情報も同様に扱うこととする。共著の場合は、著者名を「・」（ナカグロ）でつなぎ、共著者が 3 名以上の場合は筆頭著者のみを記載し、「ほか」をつける。編書の場合は、編者名の後に「編」を入れる。監修の場合は、監修者名の後に「監修」を入れる。ただし、編者や監修者が団体であるときは「編」、「監修」の記載を省略する。文庫名、新書名から出版社名がわかる場合は、文庫名、新書名を出版社名に代替してもよい。

【例】岡本史紀, 2016, 『私立大学に何がおこっているのか——「成長」を超えた「発展」か、忍び寄る「破綻」か』ミネルヴァ出版。

【例】小林雅之・山田礼子編，2016，『大学の IR——意思決定支援のための情報収集と分析』慶應義塾大学出版会。

②【欧文文献】著者のファミリーネーム，ファーストネーム ミドルネームの頭文字，出版年，タイトル：サブタイトル，出版都市名：出版社名。

「，」「.」「：」は半角とし、直後に、半角 1 字分の空白（スペース）を入れる。ファーストネームとミドルネームのあいだは半角 1 字分の空白（スペース）を入れる。タイトルとサブタイトルは、イタリック体にする（イタリック体が表記できない場合はアンダーラインをつけておく）。英語の本のタイトルとサブタイトルは、途中の冠詞と前置詞・接続詞を除き、単語の最初を大文字にする。ドイツ語の本の場合は、タイトルとサブタイトルの冒頭の文字および途中に出てくる名詞の最初の文字を大文字にする。フランス語の本の場合は、固有名詞を除き、タイトル全体の冒頭の文字のみを大文字にする。仮に、原書のタイトルがすべて大文字で書かれている場合でも、この文献記載法に従うこと。

【例】 Jackson, Suzanne L., 1976, *College Culture: The Transformation in the 90's*, New York: ABC Press.

共著の場合は、共著者の氏名については通常の語順のままとする。なお、著者名をつなぐ and は&としてもよいが、原稿のなかでは一貫した表記法をとらなければならない。共著者が 3 人以上の場合は、著者名は「，」（半角カンマ）でつなぎ、最後の著者名だけ and（ドイツ語の文献の場合は und、フランス語の文献の場合は et）でつなぐ。

【例】 Jackson, Suzanne L., and Johnson, Martin S., 1988, *Academic Revolution*, Washington D.C. : American Press.

編書の場合は、編者名の後に「ed.」を入れる。ただし、編者が団体であるときは「ed.」の記載を省略してもよいが、原稿のなかでは省略するかしないかを一貫させること。編者が複数の場合は、編者名の後に「eds.」を入れる。

【例】 Lamb, Michael E. ed., 1997, *The Role of the Father in Child Development*, 3rd Edition, New York: Wiley.

b)論文

①【和文文献】著者名，出版年，「論文のタイトル」『雑誌名』巻(号):論文の始頁-終頁。

「，」「.」は全角とし、巻号は、巻数の後に続けて半角の丸カッコ内に号数を記載する。巻(号)の後に「：」（半角コロン）と半角 1 字分の空白（スペース）でつなぎ論文の頁数を記載する。なお、巻号の代わりに、第〇号、第〇集、第〇輯などを用いている場合にも、その号数のみを記載すればよい。巻号によって刊行されて

いる雑誌の頁数の記載にあたっては、当該雑誌の号による頁数ではなく、その巻を通しての頁数を記載する。これは、同じ巻での頁数の重複による混乱を避けるためである。

【例】山田礼子, 2008, 「初年次教育ワークショップを終えて」『大学教育学会誌』30(1): 70-5.

また、原則として雑誌論文の場合は出版社名(発行元)を記載する必要はないが、雑誌名だけでは発行元がわかりにくいときは、次のように『雑誌名』の後に発行元を記載する。

【例】西丸良平, 2014, 「大学生の学業成績・能力向上感と入試選抜方法の関連」『評論・社会科学』同志社大学社会学会, 111: 141-155.

②【欧文文献】著者のファミリーネーム,ファーストネーム ミドルネームの頭文字.,出版年,“論文のタイトル,” 雑誌名, 巻(号): 論文の初頁-終頁.

「,」「.」「:」は半角とし、直後に、半角1字分の空白(スペース)を入れる。ファーストネームとミドルネームのあいだは半角1字分の空白(スペース)を入れる。論文のタイトルには“ ”を付ける(イタリック体にはしない)。必要に応じて単語の最初の文字を大文字にする。論文のタイトル中に“ ”が使われている時は、「 ’ ’」に変更する。末尾に論文の頁数を記載する。雑誌名はイタリック体にする。巻号は、巻数の後に続けて半角の丸カッコ内に号数を記載する。

【例】Thornberry, Terence P., Carolyn A. Smith and Gregory J. Howard, 1997, “Risk factors for teenage fatherhood,” *Journal of Marriage and the Family*, 59(3):505-22.

c)編著書の分担執筆論文

①【和文文献】著者名, 出版年, 「論文のタイトル」編者名編『本のタイトル』出版社名, 論文の始頁-終頁.

著書に収録された論文は、論文のタイトルに「 」(かぎカッコ)をつけ、論文のタイトル中に「 」が使われている場合には、そのカッコは『 』に変える。共著の書籍に収録された論文についても、同様に記載する。

【例】浅野茂, 2016, 「エンロールメント・マネジメント」小林雅之・山田礼子編, 『大学のIR——意思決定支援のための情報収集と分析』慶應義塾大学出版会:115-129.

②【欧文文献】著者のファミリーネーム,ファーストネーム ミドルネームの頭文字., 出版年, “論文のタイトル: サブタイトル,” 編者名 ed., 本のタイトル: サブタイトル, 出版都市名: 出版社名, 論文の始頁-終頁.

【例】Young, Peter, 1988, “The New Age of Higher Education,” Jackson, Suzanne L. Clay,

Stacey, and Johnson, Martin S. eds., *Academic Revolution*, Washington D.C. : American Press, 175-8.

d) 翻訳書・論文の場合

原典の書誌情報。(= 翻訳出版年, 訳者名訳, 『書名一副題』 出版社名.)

外国語の文献の和訳を文献リストに掲載する場合には、まず、原典の書誌情報を記載し、ついで、全角の丸カッコ内に (= .) の形式で和訳の書誌情報を記載する。その際、原典の欧文の文献の末尾には「.」(半角ピリオド)を、和訳の書誌情報の末尾には「.」(全角ピリオド)をうつことを忘れないこと。

【例】 Jackson, Suzanne L. and Young, Peter, 1983, *American Academic Culture*, New York : ABC Press. (=1995, 山田太郎訳, 『アメリカの学術文化』東京出版.)

e) ウェブサイト上に掲載された情報

ウェブページ、ブログなどウェブサイト上に掲載された文書についても、紙媒体と同じ順序で文献情報を明示し、取得日と URL を () 内に記載する。

【例】 山田太郎, 2003, 「調査のガイドライン」『社会学の方法』東京出版.

(2004年12月10日取得, <http://www.tokyo.co.jp/shakaigaku/yamada.html>)

【例】 青木二郎, 2004, 『大学論』文葉社. (2004年12月10日取得, <http://www.bunyou.co.jp/daigaku/aoki.pdf>)

【例】 池下彰, 2015, 「IR が大学改革のキーワード」『毎夕新聞』8.13. (2015年8月20日取得, <http://www.maiyu.msn.co.jp/edu/elearningschool/topics/news/20150813org00m040073000c.html>)

【例】 Smith, William, 2003, “Research on Attitude among Japanese Youth,” *American Psychologist*, 50: 153.79. (Retrieved December 10, 2004, <http://www.apa.org/journals/smith.html>)

【例】 Green, Robert, 2001, *Advancing Online Learning*, San Francisco : Cal Publisher. (Retrieved December 10, 2004, <http://www.calpub.com/green.htm>)

(15) 投稿原稿が共著論文の場合は、原稿の末尾に、それぞれの著者が執筆した分担箇所を明記する。明記できない場合は、役割分担を示すこと。

(16) 原稿の内容が倫理的配慮を必要とする場合は、必ず本文中(例: 「方法」など)に倫理的配慮や研究対象者に対してどのような配慮を行ったかを具体的に記載すること。

付記

今回の執筆要領の作成にあたっては、『社会学評論スタイルガイド(第2版)』、『高等教育研究』執筆要領」を特に参考にした。